

シ貼用ナス者ト
セハ何レノ印紙
貼用ナス可キヤ
○司法省指令
十七年五月
廿日
同之趣キ身代限
リ又ハ財産差押
ヘ又ハ物品公賣
ヲ取消ス可キ願
書及濟口証文ハ
前段見込之通
●廣島縣伺
明治十七年
五月一日
米穀ニ係ル訴狀
ニハ証券印稅規
則ニ從ヒ價額ヲ
見積リ印紙貼用
ス可ヤ將タ訴訟
當時之實價ニ依

金額	五圓マテ	貳拾錢
同	拾圓マテ	三拾錢
同	貳拾圓マテ	六拾錢
同	五拾圓マテ	壹圓五拾錢
同	七拾五圓マテ	貳圓貳拾錢
同	百圓マテ	三圓
同	貳百五拾圓マテ	六圓五拾錢
同	五百圓マテ	拾圓
同	七百五拾圓マテ	拾三圓
同	千圓マテ	拾五圓
同	貳千五百圓マテ	貳拾圓
同	五千圓マテ	貳拾五圓
同	五千圓以上ハ千圓マテ毎ニ貳圓ヲ加テ	

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼スヘシ
第三條 人事其他金額ニ見積ルヘカラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用スヘシ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ
但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ局長ノ証書ヲ所持スル者ハ裁判

ルヤ
○司法省指令
十七年五月
八日
米穀ニ係ル訴狀
ニ訴訟印紙貼用
方ノ伺ハ後段見
込之通り但賣買
ニ係ル訴訟ノ如
キハ其賣買代價
ニ依リ印紙ヲ貼
用スヘキ者トス

官ニ於テ印紙貼用ヲ免スコトアルヘシ
第四條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ
答辨書、證據物寫、辨駁書、辨論書、上申書、陳述書等証人、鑑定人、評
價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書、審判ノ延期ヲ請求スル願書
第五條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ
官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書
財產差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書
執行命令書ヲ請求スル願書
身代限ノ處分ヲ請求スル願書
第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本一
枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本一枚三錢
ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ
但裁判言渡書ノ謄本ハ一枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ一
枚二十行一行十八字詰トス
第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼
用スヘシ
第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償

第四編○訴訟○第三類○代人○民事訴訟用印紙規則
百四十七

スヘキモノトス

第九條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス
第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○第二節 同定價并貼用法

十七年二月
第四號布達

今般第五號布告ヲ以テ訴訟用印紙規則制定候ニ付印紙ノ種類定價及ヒ貼用方左之通之ヲ定ム

- 淡黑色印紙 壹枚 三錢
- 黑色印紙 同 五錢
- 赭色印紙 同 拾錢
- 茶褐色印紙 同 五拾錢

身代限
ノ部十
年七十
九號達
ヲ以テ
消ル

明治九年十
二月廿八日
達百二十一
號
租稅意納者
ノ身代限ヲ
地方廳ヨリ
訴フルハ
訴訟用野紙
ヲ用フルニ
及ハス

- 黃色印紙 同 壹圓
- 青色印紙 同 五圓
- 橙黃色印紙 同 拾圓
- 綠色印紙 同 拾五圓
- 嬌栗色印紙 同 貳拾圓

印紙ハ訴狀其他書類ノ正本ニ貼用シ貼用者ノ印章ヲ以テ消印スヘシ

○第三節 訴訟用紙

十七年三月司法
省甲第一號告示

今般第五號布告ヲ以テ訴訟用野紙規則廢セラレ候ニ付テハ本年四月一日以後民事訴訟ニ關シ大審院又ハ裁判所へ差出ス書類ハ都テ美濃紙又ハ之レト同尺度ノ紙ヲ用ヒ一枚貳拾四行一行貳拾字詰ニ書スヘキモノトス

但訴訟入費ハ明治九年當省甲第五號達第一條第九條ニ定メタル割合ニ依リ書類認料ハ壹枚金貳拾錢翻譯料ハ壹枚金四圓ト相成ル儀ト心得ヘシ

第四類 [喚問]

第四編○訴訟○第四類○喚問○訴訟用紙

明治九年二月五日司法省達十七號勅奏官及華族ノ犯罪ニ付呼出方其違註罪ニ於テハ書面推問或ハ執事呼出等ニテ行届カサル節ニ限り直ニ本人呼出シ苦シカラス

第一章 勅奏官

第一節 勅奏官華族喚問

十年十月司法省丁第八十一號達

本年第七十一號布告ヲ以テ六年第四百五號布告被廢候ニ付勅奏官及ヒ華族ハ民事裁判上其家令執事ヲ喚問スヘシ若シ本人喚問イタサス候テハ事實差支アル場合ニ於テハ時々奏請ヲ經テ喚問スヘク候條此段爲心得相達候事
但勸解ニ付喚出ノ節モ同様タルヘキ事

第二節 帶勳有位者喚問

十八年二月司法省丁第四號達

民事上帶勳有位者喚問取扱方ノ儀ニ付甲號ノ通太政官へ相伺候處乙號ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事
甲號

民事上帶勳有位者喚問取扱ノ儀ニ付伺

民事上帶勳有位者喚問取扱ノ儀ニ付テハ未タ一定ノ法規無之候然ルニ有位者喚問ノ儀ハ既ニ奏請ヲ經テ喚問取扱來候先例モ有之帶勳者ニ至テハ未タ先例無之候得共彼此同一ノ取扱振ニ可相成ハ勿論ノ儀

六年四月五日未詳司法省議定諸官員及士族庶人呼出文例

十年七月十一號布告ヲ以テ廢ス
明治六年十月七日布告四百五號勅奏官華族及有位者民法裁判ニ限リ察問

ト存候而シテ右喚問ヲ要候時ハ本年三月廿一日付伺勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀ニ對シ御裁令ノ趣モ有之依テ民事ニ於テモ同様帶勳者ハ勳六等有位者ハ從六位以上ニ限リ其時々奏問可致儀ト心得可然哉此段相伺候也

明治十六年六月四日

司法卿大木喬任

太政大臣三條實美殿

乙號 伺之通

明治十八年一月廿四日

第三節 呼出人取扱方

明治五年十月司法省第二十五號達

白洲上取扱振ニ於テ尊卑ノ分界相立來候處自今人民一般ノ公義ニ基キ從前ノ分界ヲ廢シ官員華士族平民ニ至ルマテ同様タルヘキ事

第四節 官吏ノ引合出廷

十六年二月丁第六號達

民事裁判上引合人トシテ出廷セシメタル官吏着席ノ儀ハ明治十五年

明治九年二月十九日司法省達世二
 十年司法省丁
 七十七號本年第十七
 號達呼出方
 以テ廢
 ス
 七年六月十八號
 八十一號
 達ニ依
 ナ消ル
 明治五年三月十二日達
 府並ニ開港
 場ニ開港相
 成ル處諸縣
 手同様掲前
 致スヘシ
 明治九年三月十二日達
 八十一號
 惡徒取締方
 ノ條ニ付三
 年十二月三
 府並ニ開港
 場ニ開港相
 成ル處諸縣
 手同様掲前
 致スヘシ

丙第三十二號達ニ準シ取扱フ可シ此旨相達候事
 但人民ヨリ官廳ニ係ル訴件ニ對シ引合人トナリ出廷シタル官吏着
 席ノ儀ニ付テハ本文ノ限ニ無之事
 ▲參看

○十五年六月司法省丙第三十二號達
 治罪法第九十六條ニ從ヒ告發シタル官吏ヲ証人トシテ公廷ヘ呼出ス
 トキハ本年本省丙第十號達ニ準シ處分スル儀ト心得ヘシ此旨相達候
 事

但巡查及ヒ等外吏ハ此限ニアラス
 ○十五年三月司法省丙第十號達

治罪法第二百八十五條ニ從ヒ調書ヲ作りタル司法警察官ヲ証人トス
 ルルハ書記局ヨリ報知書ヲ以テ出廷セシメ宣誓セシムルニ及ハス書
 記ノ次席ニ着テ陳述ヒシム可シ此旨相達候事

●第二章 召喚狀送達並罰令

○第一節 使丁規則

第十四年十二月司法省丁第二十六號達
 第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達

- セシムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス使丁取締ハ一人ト
 ス但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコアルヘシ
- 第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ヒ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受ク
 ルモノトス使丁ノ人員ハ使丁取締適宜ニ之レヲ定メ書記局ノ許可
 ヲ受クヘシ
- 第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス
- 第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フヘシ
- 第五條 使丁ハ送達ヲ爲スル裁判所ノ鑑札ヲ帶行スヘシ
- 第六條 送達ヲ爲スニハ其法律規則ニ從フヘシ
- 第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付キ代人トナリテ訟廷ニ出ルコ
 ヲ許サス
- 第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタルルルハ使丁取締其
 償ヲ擔當スヘシ
 但使丁ノ過失懈怠ニヨルルルハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求
 ムルコヲ得
- 第九條 (十五年丁第三十四號ヲ以テ本條ヲ左ノ如ク改正ス第十一條
 モ亦同シ)

送達賃錢ハ地方ノ便否ニ從ヒ書記局ニ於テ適宜其定限ヲ立ツヘシ
但送達書ニ賃錢ノ高ヲ附記スヘシ

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又
其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受候者ヨリ之ヲ拂フヘ
シ

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其送達
ヲ請求スル者ヨリ之レヲ拂フヘシ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲ
爲スヘシ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フヘキ旨ノ書面ヲ書記
局ニ差出スヘシ

第十五條 使丁取締及ヒ使丁ハ此規則ニ違背シタル時裁判所書記局
ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 貳拾圓以下ノ違約金ヲ納メシムル事
二 解職セシムル事

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムル事

第十六條 使丁取締タルニハ其裁判所々在ノ地ニ家屋ヲ有シ滿二十
一歳以上ノ者ニシテ書記局ノ試験ヲ經ルコトヲ要ス

使丁取締タルニハ身元保証トシテ金五拾圓以上ノ價格アル公債証
書地券又ハ銀行其他官許アル株券証書ヲ書記局ニ納ムヘシ

但シ此保証金ハ解職ノ時下戻スヘシ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲スヘシ
但シ書記不足ナルトキハ雇ヲ以テ之ニ充ツヘシ
試験ノ科目ハ左ノ如シ

一 使丁規則 二 請負郡村ノ地名又ハ里數 三 普通書簡ノ書類
第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限リノ處分ヲ受ケ未
タ辨償ヲ終ラサル者ハ使丁取締又ハ使丁タルコトヲ許サス

▲參看 使丁規則第九條(十四年十二月丁第二十六號達)

送達賃錢ハ書類ノ大小ニ拘ハラヌ一通ニ付一里五錢以下トス
賃錢ノ定限ハ使丁取締之ヲ申立書記局之ヲ決シ且送達書ニ其賃
錢高ヲ附記スヘシ

▲參看 全上第十一條
刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受クルモノヨリ之レヲ拂置クヘ

但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置クハシ

○第二節

民事勸解ニ關シ軍人軍屬ニ對シ訴狀呼出狀送達方 十七年三月司達
屬ニ訴狀呼出狀送達方 法省丁第七號

民事及勸解ニ關シ軍人軍屬ニ訴狀呼出狀送達方ノ儀別紙ノ通青森治
安裁判所ヨリ伺出候ニ付朱書ノ如ク及指令候條爲心得此旨相達候事
別紙

民事勸解等ニ付軍人軍屬ニ對シ訴狀送達及ヒ呼出ノ儀ニ付伺

第一條 在營ノ軍人軍屬兵卒等ニシテ民事勸解等ニ相手取ラレタル
時ハ判任以下他文官トハ自ラ身分ヲ異ニスル者ナレハ訴狀及ヒ呼
出狀ハ所屬長官ヲ經由シテ送達スヘキヤ

第二條 下士官等ニテ營外ニ下宿ヲナシ居ルモノニ係ル時ト雖モ同
ク所屬長官ヲ經由シテ送達スヘキヤ將タ本人ニ直チニ送達スルモ
苦シカラスヤ

第三條 右訴狀ノ送達ヲ受ケタルノ後チ原告ト對談ヲ以テ濟方延期
ヲ願出シ置キ其延期中ニ在リテ他ニ轉營ノ命ヲ受ケタルノ際代人
ヲモ差出サス原告ヘモ何等ノ斷リモナク出起シタル者再度ノ呼出

ハ如何取計可然哉

右差掛リ候儀モ有之候條至急御指令相成度此段弘前始審廳ヲ經由シ
テ奉伺候以上

朱書

伺ノ趣ハ左ノ通

第一條 所屬ノ隊長々官ヲ經由スヘシ

第二條 末段見込ノ通

第三條 第一條指令ノ通心得ヘシ

○第三節 呼出遅不參罰令

十年一月第
五號布告

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノノ疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參
スルルハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限マデニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右
刻限ヲ過キテ届出ルカ又ハ無届ニテ遲參不參スルルハ裁判官ニ於テ
直ニ五錢以上拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○第四節 呼出狀並送達書式

十七年三月司法
省丁第八號達

今般訴訟用野紙規則廢セラレ候ニ付民事訴訟ニ關スル呼出狀並ニ送

同上

明治四年五

能ハス勾留ニ換

同上

明治四年四

若松始審裁判所

月廿三日刑

檢事ヨリ人民徴

部省ヨリ民

喚不參ノ科ニヨ

部省ヘ廻答

リ罰金科料ニ處

呼出人遲參

セラレ納完スル

不參ノ處置

方

十年五

號布告

ヲ以テ

消ル

明治三年閏

十月十四日

刑部省ヨリ

民部省ヘ廻

答

呼出人遲參

不參ノ處置

第四編○訴訟○第四類○喚問○呼出遅不參罰令並送達書式

百五十七

月廿三日刑部省ヨリ民部省へ廻答
 呼出人運送不參ノ處置
 方 明治七年七月十二日司
 法省達甲十
 四號
 裁判所取締
 規則增補第
 九條刻限呼
 出ヲ受ケ運
 送不參スル
 者處分方
 明治七年十
 二月二十日
 司法省達甲
 廿一號
 刻限呼出ラ
 受ケタル者
 屬ナク運送
 不參シ又ハ
 刻限後届出
 ル者ハ斷獄
 課ニ廻シ運
 送問ハシム

ラル、者ノ儀ニ
 付別紙寫ノ通り
 伺ニ對シ朱書ノ
 通御指令相成候
 當裁判所管轄ニ
 於ケルモ同様數
 十里外ヨリ引致
 岩手縣監獄署又
 ハ磐井支署ニ於
 テ執行致サ、ル
 フ得サルニ付縣
 廳へ協議ノ上各
 警察本分署ニ於
 テ勾留執行爲致
 不苦哉
 (別紙)
 ●若松始審裁判
 所檢事伺
 明治十五年
 九月十八日
 當裁判所ニ於テ

達書式別紙ノ通相定候條左ノ手續ニ依リ取扱可申事
 但大審院控訴裁判所ヨリ發スル證人等ノ呼出狀並ニ送達書ハ第四
 號第五號書式ニ準シ調製可致事

第一條 大審院控訴裁判所ニ於テハ其所在地ニ在ル者始審裁判所治
 安裁判所ニ於テハ其管轄地内ニ在ルモノニ對シ呼出狀ヲ發シ又ハ
 書類ヲ送達スヘキトキハ都テ其所属使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘ
 シ
 若シ送達ヲ受クルモノ該廳所在地又ハ管轄地内ニ在ラサルトキハ
 之レヲ管轄始審裁判所又ハ治安裁判所ニ送致シ送達方ヲ囑托スヘ
 シ

第二條 送達方ノ囑托ヲナスヘキ場合ニ於テハ裁判所へノ往復費(郵
 等稅)並ニ裁判所ヨリ使丁賃金ヲ見積リ其送達ヲ請求スルモノヨリ假
 納セシメ置クヘシ

第三條 囑托ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ其所属使丁ヲシテ之レヲ送
 達セシメタル上其呼出狀又ハ送達書(囑托セシムルモノ)ノ一通ヲ囑托ヲ
 ナシタル廳ニ回送シ且使丁賃金及ヒ回送費用(郵便等稅)ノ額ヲ報知シ
 テ償却ヲ求ムヘシ

徵喚不參ノ科ニ
 ヨリ罰金又ハ科
 料ニ處セラレ納
 完セスシテ勾留
 又ハ輕禁錮ニ換
 ヘラル、者不少
 是等ハ概テ欠賄
 ニ係リ逮捕狀ヲ
 以テ數十里外ヨ
 リ引致福島縣監
 獄署若松支署ニ
 於テ執行致來候
 得共右ハ尤モ微
 罪ナルヲ以テ斯
 ク手數ヲ要セズ
 其住所ヲ管轄ス
 ル各警察本分署
 ノ勾留所ニ於テ
 執行セシムル方
 官民ノ便宜ニ付
 自今右様取計可

右相達候事

別紙

第一號 (用紙美濃紙ノ類) (輪廓寸法凡 七寸 四寸 七步) (ノハ八朱)

出	原告(氏名)ヨリ前記ノ事件	呼	訴訟番號	明治(何)年(何)號	訴訟標目	(何)々	住所身分職業	(氏名)
	及(控)訴候ニ付別冊訴狀送達候條來ル(何)月(何)日午前(何)時當裁判所ニ出頭答書可差出者也	送達シタル	送達シタル	月日時	送達シタル	場所	右之通取扱候事	明治(何)年(何)月(何)日
狀	明治(何)年(何)月(何)日(廳) (某)始審(治安)裁判所	送達シタル	送達シタル	月日時	場所	使丁 (氏名印)		

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由

親屬雇人又ハ委任ヲ受ケタル者若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由

割印

然哉

朱書

伺之通

但輕禁錮ハ

監獄ニ於テ

執行スヘキ

モノトス

○司法省指令

伺之通

十七年三月

七日

●司法省伺

明治十六年

六月四日

民事上帶勳有位

者喚問取扱ノ儀

ニ付テハ未タ一

定ノ法規無之候

然ルニ有位者喚

問ノ儀ハ既ニ奏

請ヲ經テ喚問取

割印

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

訴訟 番號	明治(何)年 第(何)號	受取人ノ署名捺 印若シ能ハサル 時ハ其事由
訴訟 標目	(何々々) [住所身分職業] [氏名]	送達シタル 時
出	原告(氏名)ヨリ前記ノ事件 及(控)訴候ニ付別冊訴狀送達 候條來(何)月(何)日午前(何) 時當裁判所ニ出頭答書可差 出者也	送達シタル 場所
呼	明治(何)年(何)月(何)日 朱 [某] (始審) 裁判所 [治安]	受取人ノ署名捺 印若シ能ハサル 時ハ其事由
狀	右之通取扱候也 明治(何)年(何)月(何)日 使丁 [氏名印]	送達シタル 月日時

第二號

扱來候先例モ有
之帶勳者ニ至テ
ハ未タ先例無之
候得共彼此同一
ノ取扱振ニ可相
成ハ勿論ノ儀ト
存候而シテ右喚
問ヲ要候時ハ本
年三月廿一日付
伺勅奏官華族等
犯罪取扱方ノ儀
ニ對シ御裁令ノ
趣モ有之依テ民
事ニ於テモ同様
帶勳者ハ勳六等
有位者ハ從六位
以上ニ限リ其時
々奏問可致儀ト
心得可然哉此段
相伺候也
○太政官指令

訴訟 番號	明治(何)年 第(何)號	受取人ノ署名捺 印若シ能ハサル 時ハ其事由
訴訟 標目	(何々々) [住所身分職業] [氏名]	送達シタル 時
出	原告(氏名)ヨリ前記ノ事件 及控訴候ニ付別冊控訴狀送 達候條受取ノ日ヨリ(何)日 内ニ當裁判所へ出頭答辨書 可差出者也 但住居ヨリ當裁判所へ至ルノ距離 八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與ヘ候事	送達シタル 場所
呼	明治(何)年(何)月(何)日 朱 [某] 控訴裁判所 [印]	受取人ノ署名捺 印若シ能ハサル 時ハ其事由
狀	右之通取扱候也 明治(何)年(何)月(何)日 使丁 [氏名印]	送達シタル 月日時

割印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

第四編○訴訟○第四類○喚問○呼出狀並送達書式

十八年一月廿四日
伺之通

訴訟番號 明治(何)年(何)月(何)日 (何)冊		呼 標目 (何)々		出 (住所身分職業) (氏名)		狀 原告(氏名)ヨリ前記ノ事件及控訟候ニ付別冊控訟狀送達候條受取ノ日ヨリ(何)日内ニ當裁判所へ出頭答辨書可差出者也 <small>但住居ヨリ當裁判所へ至ルノ距離八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與ヘ候事</small> 明治(何)年(何)月(何)日 (某)控訴裁判所	
受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由	送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人又ハ委任ヲ受ケタル者若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由	右之通取扱候也 明治(何)年(何)月(何)日 使丁 (氏名印)	割印	一葉ヲ書記局へ還納スヘシ	大審院

第三號

訴訟番號 明治(何)年(何)月(何)日 (何)冊		呼 標目 (何)々		出 (住所身分職業) (氏名)		狀 原告(氏名)ヨリ前記ノ事件及控訟候ニ付別冊控訟狀送達候條受取ノ日ヨリ(何)日内ニ當裁判所へ出頭答辨書可差出者也 <small>但住居ヨリ本院へ至ルノ距離八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與ヘ候事</small> 明治(何)年(何)月(何)日 (某)控訴裁判所	
受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由	送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人又ハ委任ヲ受ケタル者若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由	右之通取扱候也 明治(何)年(何)月(何)日 使丁 (氏名印)	割印	大審院	第四編○訴訟○第四類○喚問○呼出狀並送達書式

割印

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

上告 番號	明治(何)年(何)月(何)日	受取人ノ署名捺 印若シ能ハサル 時ハ其事由	送達シタル 月日時	送達シタル 場所	親屬雇人又ハ委 任ヲ受ケタル者 若クハ戸長ニ渡 シタル時ハ其事 由
呼上告 標目	[何々々] [册何]				
出	[住所身分職業] [氏名] 前記上告事件及受理候ニ付 別册上告書送達候條受取ノ 日ヨリ三十日内ニ本院へ出 頭答辨書可差出者也 但住居ヨリ本院へ至ルノ 距離八里毎ニ一日ノ猶豫 與へ候事 朱 明治(何)年(何)月(何)日	右之通取扱候也 明治(何)年(何)月(何)日			
狀					使丁 (氏名印)

大審院

第四號

訴訟 番號	明治(何)年(何)月(何)日	受取人ノ署名捺 印若シ能ハサル 時ハ其事由	送達シタル 月日時	送達シタル 場所	親屬雇人又ハ委 任ヲ受ケタル者 若クハ戸長ニ渡 シタル時ハ其事 由
呼訴訟 標目	[何々々]				
出	[住所身分職業] [氏名] 右前記訴訟事件ニ付 及審問 證人(引合人)トシテ相尋儀 有之鑑定(評價)ヲ命スル儀 有之 候條來ル [何]月(何)日午前(何)時當裁 判所へ出頭可致者也 明治(何)年(何)月(何)日	右之通取扱候也 明治(何)年(何)月(何)日			
狀					使丁 (氏名印)

割印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

第四編○訴訟○第四類○喚問○呼出狀並送達書式

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

呼 訴訟 番號 明治(何)年(第)何號 割印		住所身分職業 (氏) 名 右前記訴訟事件ニ付 及 審 問 證人(引合人)トシテ相尋儀 有之鑑定(評價)ヲ命スル儀 有之 候條來ル (何)月(何)日午前(何)時當裁判 所へ出頭可致者也 明治(何)年(何)月(何)日 (某) (始審) 裁判所 (印)		受取人ノ署名捺 印若シ能ハサル 時ハ其事由 送達シタル 月日時 送達シタル 場所 親屬雇人又ハ委 任ヲ受ケタル者 若クハ戸長ニ渡 シタル時ハ其事 由		右之通取扱候也 明治(何)年(何)月(何)日 使丁 (氏) 名印	

第五號

送 (一)送達スル書名 壹册 (二)同 壹册 右(何)縣(何)國(何)區(何)町(何)郡(何)村 番地何某へ送達ス ル者也 明治(何)年(何)月(何)日 (某) (始審) 裁判所 (印)		書 書記(氏)名印	
受取人ノ署名捺 印若シ能ハサル 時ハ其事由 送達シタル 月日時 送達シタル 場所 親屬雇人又ハ委 任ヲ受ケタル者 若クハ戸長ニ渡 シタル時ハ其事 由		右之通取扱候也 明治(何)年(何)月(何)日 使丁 (氏) 名印	

割印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

割印

一葉ヲ書記局へ還納ス可シ

送	〔一〕送達スル書名 〔二〕同	登冊	受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由
送	右〔何縣何國何郡何村何番地何某へ〕送達スル者也	登冊	送達シタル
送	明治何年何月何日	登冊	月日時
送	〔某〕〔始審〕〔治安〕裁判所	登冊	送達シタル
送	書記〔氏名印〕	登冊	場所
送	朱印	登冊	親屬雇人又ハ委任ヲ受ケタル者若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由
送	右之通取扱候也	登冊	明治何年何月何日
送	使丁〔氏名印〕	登冊	

●高知縣伺

明治十七年

二月廿日

訴訟入費償却規則
 第四條但書ニ
 八里ヲ越レハ每
 滿一里ニ付キ拾
 錢トアルハ假令
 ハ裁判所ヲ距ル
 九里ノ地ヨリ召
 喚ニ應シタルハ
 ハ更ニ一里ヨリ
 起算シ即チ金九
 拾錢ヲ給スルノ
 主旨ニ候哉將タ
 滿八里ノ外ヨリ
 一里毎ニ金拾錢

第五類 「訴訟入費」

●第一章

○第一節 訴訟入費償却規則

九年四月司法省
甲第五號布達

第一條

訴狀其外書類認料（一枚十六行十五字詰ニ付十錢但シ一枚以下モ同價）

右定限

- 第一 原告人ノ訴狀ノ正本副本
 - 第二 被告人ノ答書ノ正本副本
 - 第三 訴訟又ハ答書中ニ記載シ達キ證據ノ書類ノ寫
 - 第四 審判中ニ原告又ハ被告ヨリ差出シタル證據ノ書類ノ寫
 - 第五 訴訟中訴狀ニ關係スルノ事件ニ付原被雙方往復ノ文書
- 第二條
 証人並ニ引合人（明治十二年十月廿七日司法省甲第二號布達ヲ以テ差添入ニ係ル件々一切删除ス故ニ之ヲ省ク以下倣之）手當一日ニ付五十錢
 但レ八里以外ヨリ罷出止宿ノ者ハ二十五錢ヲ増ス

第四編○訴訟○第五類○訴訟入費○訴訟入費償却規則

ヲ乘シ九里ハ金
貳拾錢十里ハ金
三拾錢ト計算ス
ル儀ニ候哉

○司法省指令

十七年三月
十二日

伺之趣后段見込
ノ通

右定限
裁判所ニ出席ヲ爲シタル日

第三條

証人並ニ引合人

日ニ付五十錢

(明治九年四月司法省甲第六號布達ヲ以テ本條並ニ第六條ハ執行ヲ停止ス)

第四條

証人並ニ引合人

旅費滿八里ニ付十錢歸路モ同斷

但シ八里ヲ越ユレハ每滿一里ニ付十錢

右定限

第一 兩線ノ官道甲路ハ遠ク乙路ハ近キ時ハ現ニ甲路ヲ經ルト

雖モ乙路ヲ以テ計算スヘシ

第二 本條ハ日本國管内ヲ通行スル者ノ爲メ設ク

第五條

原告人又ハ被告人直ナル者ノ手當

一日ニ付五十錢

但シ八里以外ヨリ罷出止宿スル者ハ二十五錢ヲ増ス

右定限

第二條ニ同シ

第六條

原告人又ハ被告人直ナル者八里以外ノ地ヨリ來リ滯留中手當一日

ニ付五十錢(第三條ノ割註ヲ參看スヘシ)

第七條

原告人又ハ被告人直ナル者旅費滿八里ニ付十錢歸路モ同斷

但シ八里ヲ越ユレハ每滿一里ニ付十錢

右定限

第四條ニ同シ

第八條

通辨雇料 一日ニ付三圓

右定限

第二條ニ同シ往返旅費ヲモ定額ノ通計算スヘシ

第九條

翻譯料

(一枚ニ付十六行十五字詰二圓但シ一枚以下モ同價)

右定限

第一條ニ同シ

第十條

測量繪圖認料

右定限

- 第一 長三百間ニテ盡ル時ハ
百間ニ付一尺ノ割
西ノ内一枚ニ付十錢
 - 第二 長六百間迄
百間ニ付五寸ノ割
西ノ内一枚ニ付十二錢
 - 第三 長千二百間迄
百間ニ付三寸ノ割 同十四錢
 - 第四 長六千間迄
百間ニ付二寸ノ割 同十七錢
 - 第五 長一萬二千間迄
百間ニ付一寸ノ割 同二十錢
 - 第六 長一萬二千間以上
百間ニ付五分ノ割 同廿四錢
- 一測量ニ及ハサル見取繪圖ハ間數ノ長短ヲ論セス大凡見積ヲ以テ

簡便ニ圖引致スヘシ

但シ西ノ内一枚ニ付拾錢

第十一條

使賃 滿一里毎ニ拾錢一里未滿ハ五錢

但シ歸路モ同斷

右定限

- 第一 裁判所ニテ示談中雙方承諾ノ上原告被告雙方又ハ一方ノ者ヨリ遣ハシタル使賃
 - 第二 裁判所ニテ示談中原告又ハ被告一方ノ者掛裁判役ノ檢印ヲ經タル使賃
 - 第三 原告又ハ被告一方ノ者出訴中違約シテ出席セサル時掛裁判役ノ檢印ヲ經テ違約ヲ責ムル使賃
 - 第四 原告被告雙方ノ爲メ又ハ一方ノ爲メニ雙方又ハ一方ノ者ノ申上ニ因リ裁判所ヨリ臨時ニ遣ハシタル使賃
- 第十二條
- 郵便並ニ電信料 定價
- 右定限

第十一條 同
第十三條

身代限ヲ爲スニ付裁判所又ハ縣廳又ハ(町村)役場ニ納ムヘキ評價人鑑定人等ノ日備賃金ノ諸入費及身代限諸雜費ハ臨時計算ヲ以テ定メ右ハ前數條ノ入費ニ先チテ取立ツヘシ

○第二節 呼出狀送達費用 十一年三月司法省丁第十號達

民事訴訟上ニ付人民喚出狀送達費用等余儀ナク一時裁判所ヨリ立替渡シタルモノハ其時々直チニ詞訟人ヨリ取立ヘシ但裁判落着ノ上ハ曲者ノ辨償ニ歸スヘキハ勿論タルヘキ事

○十二年十一月司法省丁第二十八號達
訴訟入費云々ノ儀十一年丁第四十四號ヲ以テ相達置候處左ノ通改達候條此旨可心得事

訴訟入費ハ曲者ヨリ直者ニ辨償スヘキハ當然ノ事ナルニ付裁判言渡ノ節ハ必ス曲者ノ辨償ニ歸スヘキ旨言渡スヘシ

○第三節 公訴私訴ニ係ル控訴上告 十四年九月布告及ヒ証人呼出費用 第四十五號

公訴私訴ニ係ル控訴上告及ヒ証人呼出費用等ノ儀當分左ノ通相定候

條此旨布告候事

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ控訴又ハ上告ヲ爲ス者アル時ハ原裁判所ニ於テ其訴訟費用ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムヘシ若シ豫納スルコト能ハサル時ハ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ許サス豫審又ハ公判ニ付証人ヲ呼出サント請フ者アル時ハ裁判所ニ於テ其旅費日當ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムヘシ若シ被告ハ旅費日當ヲ豫納スルノ資力ナキ時ハ治罪法第七十條ノ制限ニ從ヒ裁判所ニ於テ其費用ヲ立替置クヘシ

○第四節 脚夫ノ賃錢及赤貧者ノ喚問旅費 十五年三月內務省乙第二十號布達

民事裁判所ヨリ人民呼出狀脚夫ノ賃錢及赤貧者被告トナリ喚問旅費ノ儀從前郡區役所又ハ戶長役場ニ於テ繰替又ハ官費支給候向モ有之候處自今一切不相成候條此旨相達候事

○十五年四月司法省丁第二十一號達

民事裁判上人民召喚狀脚夫賃錢及赤貧者喚問途中旅費支出方ノ儀ニ付明治十年本省丁第八十六號達ニ及置候處嚮ニ內務省ヨリ協議有之今般同省ニ於テ乙第廿號ノ通府縣へ達相成候條此旨爲心得相達候事

明治十
五年七
月七日
司法省
達丙廿
六號達
ニ依テ
消ル

治罪法第三
百七條第二
項公訴裁判
費用官ニ於
テ據當スヘ
キ場合該金
額ハ裁判所
ヨリ支出ス
ル儀ト心得
シム但從前
ノ指令内訓
本文ニ低額
スル件々ハ
取消トス

○第五節

裁判費訴訟費償却例

十二年三月司
省丁第十號達

裁判費訴訟ノ儀ニ付別紙ノ通大審院へ相達候條此旨爲心得相達候事
大審院へ達(明治十二年三月十三日)

裁判費訴訟價ノ儀過般及答議候處右ハ取消シ別紙ノ通相達候事
別紙

〔第一例〕

初告ニテ(原告甲勝 被告乙負)乙入費ヲ拂フ

控訴ニテ(原告乙勝 被告甲負)甲ハ初告控訴兩件ノ入費ヲ拂フ

〔破毀セス〕上告ニテ(原告甲負 被告乙勝)甲ハ總テノ入費ヲ拂フ

〔第二例〕

初告ニテ(甲勝或ハ負トモ 乙負或ハ勝トモ)

控訴ニテ(甲勝 乙負)甲ハ初告控訴ノ入費ヲ拂フ

〔破毀ス〕上告ニテ(甲勝 乙負)乙ハ上告入費ヲ拂フ而シテ甲ハ控訴マテ

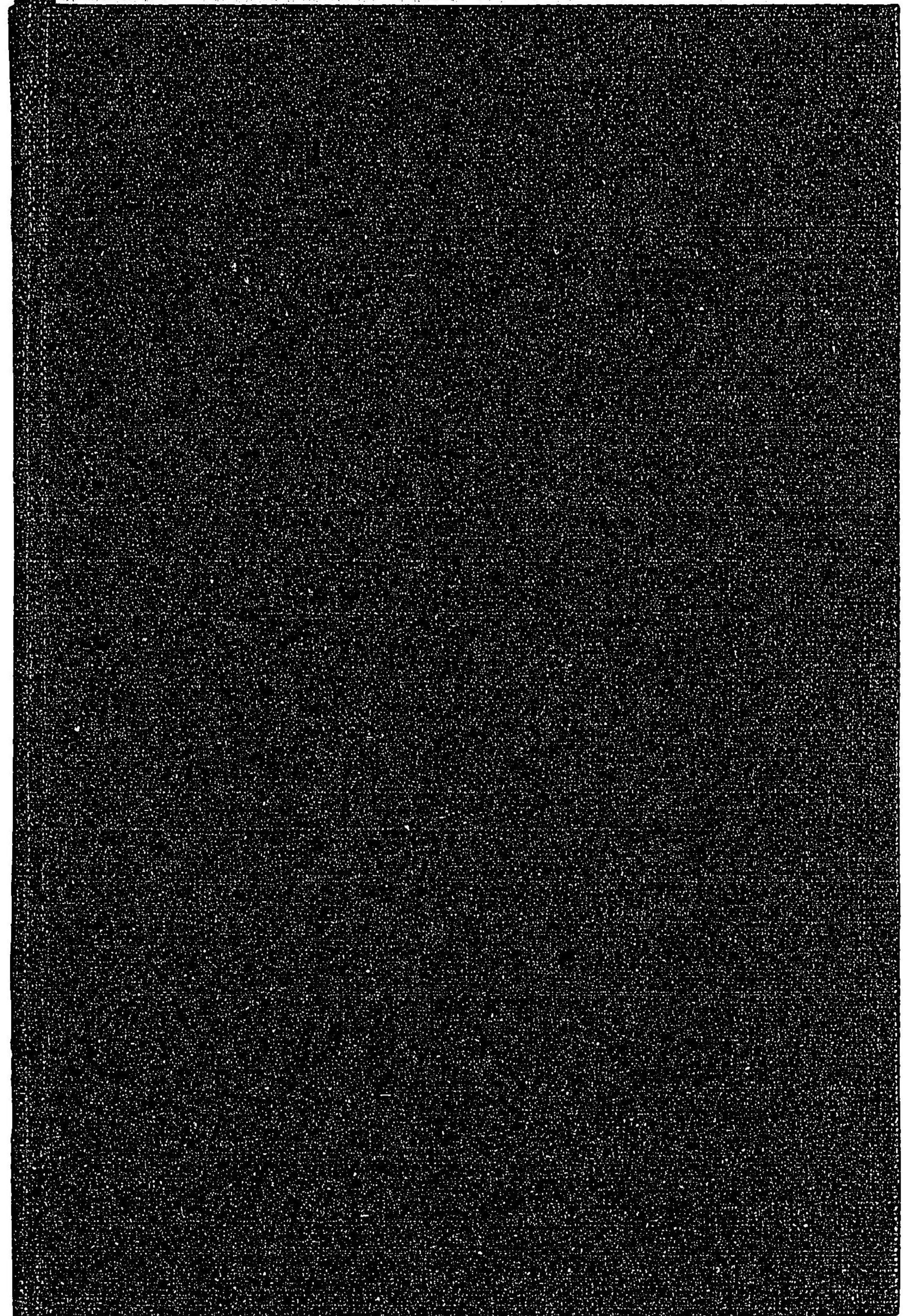
一 乙ノ入費ヲ既ニ償ヒシナラハ取返スヘシ

〔第三例〕(此例ハ大審院ニ於テ破毀シタル後第
二ノ上審裁判所ニ移シタル場合ナリ)

此時負者ハ初告ト第一控訴第二控訴ト都合三件ノ入費ヲ拂フ

ヘシ上告入費ニ至テハ其上告ノ負者之ヲ拂ヒ第二控訴ノ負者
ハ之ヲ拂フヘキニアラス

377



318

3

禁電子式複写

Vertical line of text on the left side of the page, possibly a page number or header.

